



結論



黒耀

大したことじゃない

終りに辿り着きたいと思う時がある。

何で産まれたのか

何のために生きているのかだとか、

どこからが始まりで

どこが今で

どこかで今が終わって、

ただ其れが有るというだけで

目の前の現象は共有しているモノだとは思えない

存在の存在など確立出来る事を出来るのは自分自身だと思うけど

自身すら存在しているか

鏡だって虚像だ

縦に左右反転して

横に上下反転する

自身の姿は絶対的に確認が出来ないのに

それでは結局何の確立も出来てないという事になる

自分自身の後ろ姿なんて

それこそ鏡ですら確認できない

だから、背面に興味がない。

自分の背中を見ている誰かの視線は絶対的に自分自身では見れないのだから。

目に見えているものは本当は嘘で

嘘の反対側は本当だと

誰が証明してるんだろうね。

ある人は言った。

自分の後ろ姿を見てくれている人なんて
僕がその姿を見れないんだから、興味ないって。

ある人は気付いた。

後ろ姿を見て、この人素敵な雰囲気だなあ。って。

<http://p.booklog.jp/book/120092>